

2023 年度
事業報告書

自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日



I. 個別の事業活動に関すること

1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益1・収益1】

2022年3月に策定した「公益財団法人つくば科学万博記念財団中長期計画」に基づき、つくばエキスポセンター（以下、「センター」という。）の事業を実施した。

2023年度のセンターの入館者数は181,971人（2022年度：173,670人、2021年度：121,527人、2020年度：70,606人、2019年度：176,296人）であった。

新型コロナウイルス感染拡大も収まり、コロナ前（2018年度：194,150人）と比較すると約94%まで戻り、2023年度事業計画時の目標175,000人を約7,000人上回る結果となった。

5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、センターでも、入館者のマスク着用は個人の判断とした。一方、スタッフのマスク着用、展示物等の消毒は継続することとした。

(1) 展示【公益1】

他科学館の展示物に関する情報収集等を行いつつ、展示の構想案の見直しや催事企画を進めてきた。

① 1階展示場および屋外展示場

1階展示場では新しい展示物「シャボン玉の壁」の運用を開始したが、使用状況を見て、より運用しやすいものにしていくこととした。また新たな展示物である「元素周期表」を製作し、3月に設置した。

屋外展示場では、H-IIロケット実物大模型の基礎部分について雨水浸透防止のため、保守整備を実施した。また、万博当時のモニュメント展示の劣化がみられたため、清掃と看板のリニューアルを実施し、英語表記の看板を追加した。

② 2階展示場

「宇宙への挑戦」ゾーンについて、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の協力の下、映像とパネルの情報更新を行った。「超への挑戦」ゾーンでは、理化学研究所の協力でスーパーコンピュータ「富岳」の映像展示を更新した。

サイエンスギャラリーにおいて、パネル展を開催した。

③ 3Dシアター

通常の6番組の上映に加えて、団体特別プログラムとして団体入館者向けの番組上映を行った。

(2) 催事【公益1】

① 一般催事

「科学教室」16テーマ107回、「サイエンスショー」11テーマ89回を

実施した。また、「ジュニアサイエンス講座」や「ドローンでプログラミング体験」などを開催した。

外部機関との連携イベントとして、「七夕講演会 宇宙のなぞを解き明かせ!〜ブラックホールと重力波〜」(高エネルギー加速器研究機構との共催)や「生物がすむ果てはどこだ?」(海洋研究開発機構の協力)、『第49回ミーツ・ザ・サイエンス「南極の今!〜つくばに戻った隊員たち語る〜」』(南極OB会茨城支部との共催)などを開催した。また、宇宙航空研究開発機構(JAXA)主催、当財団との共催により『JAXA 美笹深宇宙探査用地上局プロジェクト完了記念 特別展示「美笹局、できました。〜深宇宙探査を支える大型パラボラアンテナ〜」』を開催した。

② 特別催事(企画展)

年間を通して企画展を開催することとし、春の企画展として「くらべてびっくり!『くらべる図鑑』」を3月から6月まで開催し、小学館の大人気図鑑の実物大サイズのパネルや映像を展示した。

夏の企画展として、様々な万華鏡が体験できる「のぞいてみよう 鏡と光の不思議な世界」を7月から9月まで開催した。

秋冬の企画展として、歯車をテーマとした体験展示物を設置した「すごいで!歯車!!くるくる回っていっぱいお仕事」を11月から2024年1月まで開催した。

2024年春の企画展として、元素をテーマとした「世界の“もと”はげん・そ!?〜すべては118の元素のくみあわせ〜」を2024年3月から5月まで開催した。

(3) プラネタリウム【公益1】

上映番組としては、星空解説番組、こども番組の上映や過去のオリジナル番組のリバイバル上映のほか、2年ぶりに新オリジナル番組「星に導かれて〜タヒチからハワイへの航海術〜」を制作し上映した。また「銀河鉄道999 赤い星ベテルギウス いのちの煌き」や「銀河鉄道の夜」など話題性のある作品も上映した。さらに、2023年度から星空解説番組について、土日祝日や学校の休み期間などには1日2回と上映回数を増やした。こども番組や特別番組(現一般番組)の選定においては引き続きストーリーミング映像配信サービスを活用し、多種多様な番組の上映を行った。

センター制作のオリジナル番組の他館販売に関しては、「天球のものがたり」などが他のプラネタリウム施設(昨年からの継続4館、新規に6館)で上映され、ライセンス料の収入を得た。

天体観望会に関しては、コロナの状況の改善に伴い、定員を75名に増やし、さらに天候の良い冬季の実施回数を増やして実施した(計8回)。また冬季に限りミニ観望会(10月〜2024年1月)を閉館後に実施した。

プラネタリウム100周年を記念し、パネル展示や新オリジナル番組記念

講演会「星空人類学～人類学者が語る南太平洋に伝わる星座と暮らし～」などを開催した。また、「ウクライナの人たちに寄りそうクリスマスイブ企画ハルキウの星空とチェロのコラボ」を開催し、ウクライナ大使館に収益金の寄付を行った。

プラネタリウムシステムの改修として、ストリーミング映像配信サービスの上映画質の向上（解像度 2K から 4K へ）を目的としたシステムの更新を実施した。また、ドーム内での光漏れ対策として、プラネタリウムホールドアパッキンの改修工事を実施した。

(4) ミュージアムショップ【収益 1】

科学に関連した商品提供、コスモ星丸などのオリジナルグッズの製作、市内の大型書店でのオリジナルグッズ販売の継続、企画展やプラネタリウム番組に関連した商品の提供を行い、センターの広報と共に、売上向上に努めた。

(5) その他【公益 1・収益 1】

① 関係機関との連携・協力【公益 1】

宇宙航空研究開発機構（JAXA）、海洋研究開発機構など研究機関や地元の教育機関と連携し、科学技術コミュニティの場となることを目指し、特別イベントを開催した。

② 「カフェ」の営業【収益 1】

民間事業者の協力を得て、土日祝日や学校の休み期間などに営業し、来館者へのサービス向上に努めた。

③ 駐車場及び財団の事業目的に沿った施設等の外部利用【収益 1】

駐車場は、団体バス及び個人の乗用車での来館者に対して車種、利用日に応じて有料で対応した。

つくば市が実施しているつくばショートムービーコンペティション 2024 に協賛し、プラネタリウムホールの貸出を行った。

2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業【公益 2・収益 2】

(1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益 2】

① 科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力

科学技術週間におけるセンター入館料割引を行うとともに、科学技術映像祭の入選作品上映会等を実施した。

また、下記の事業に主催、共催、後援、協力を行った。

- ・第 65 回科学技術映像祭（主催）
- ・第 16 回日本地学オリンピック（共催・協賛）
- ・第 19 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2023」（共催）
- ・第 13 回科学の甲子園茨城県大会（共催）、他 5 件

② 科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業

2022 年度に引き続き、地元のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）と連携した学校連携事業を企画し、6 月にセンターの展示物を活用した SSH 講座、8 月に「地元中高生による EXPO サイエンス DAY！」を実施した。また、新たな企画として 3 月に「地元中高生によるプラネタリウム解説」を実施した。

③ 全国ジュニア発明展

全国ジュニア発明展の事業目的を継承し、全国的な展開の方向性を改め、第 67 回茨城県児童生徒科学研究作品展に協力し、財団理事長賞を贈呈するなど地元茨城県の小中学生の科学研究活動を支援した。

④ おとなのためのサイエンス講座

筑波大学や地元の研究機関、企業の協力を得て、新規講座を含め、7 講座を開講し、受講生は 48 名であった。

⑤ アウトリーチ活動

70 回実施し、参加人数 5,142 人であった。

つくば市に協力し、駅前施設で「親子で科学実験工作」を実施した。加えて、外部資金を活用し、学校向けに科学出前教室を実施した。

茨城県南地区の教員による「県南理科教育を語る会」の研修会や科学の甲子園全国大会にブース出展し、移動プラネタリウムを実施した。

⑥ エキスポ科学クラブ

小学校 3・4・5 年生クラスを実施し、合計クラブ員数 84 名で、40 教室を開催した。

⑦ 科学館連携事業

全国の科学館とのネットワークを活用し、各種研修に参加した。また、展示更新や事業充実のための情報収集として、職員が分担して他科学館を視察した。

⑧ 学芸員育成のための教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ

博物館実習として学芸員実習生 4 名、中学生の職場体験として 5 名を受け入れた。

また、つくばインターナショナルスクール（TIS）と連携・協力して、11 年生 6 名の生徒がセンターの英語版プラネタリウムガイド（冬）・プラネタリウ

ム 100 周年ポスター、新展示 PR ビデオの制作・展示物の一部英語表記を作成したほか、英語版センターパンフレット・ポスターを制作しセンターの活動に活用した。

(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益 2・収益 2】

① 助成支援【公益 2】

「ミツバチサミット 2023」を助成した。
筑波研究学園都市交流協議会やつくばサイエンス・アカデミー等の団体に対して、イベントの共催や後援等の協力を行った。

② つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益 2】

記事・コラムの掲載は 206 本であり、アクセス数は 246,056 件となった。
2023 年 7 月よりつくばで活躍している研究者を取材し、研究内容や研究者を紹介する「研究者コーナー」を新設した。

③ 研究者等語学研修を通じた研究者交流【収益 2】

第 46 回英語研修（通年クラス）の受講者数は 101 名（8 クラス）となり、主にオンライン授業を実施し、一部対面授業とも組み合わせて行った。秋クラスについては 29 名（3 クラス）、冬クラスは 42 名（3 クラス）の受講者数であった。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他 1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務については、2018 年 4 月から引き続き休止している。

4. 情報発信・広報活動

(1) 情報発信（情報公開）

「2022 年度事業報告書及び計算書類等」及び「2023 年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ホームページで公開した。

2023 年 4 月～2024 年 3 月末のページビューアクセス数：

① つくばサイエンスニュース	246,056 件
② つくば科学万博記念財団ホームページ	69,467 件
③ つくばエキスポセンターホームページ	2,335,972 件

(2) 広報活動

筑波研究学園都市記者会等へのプレスリリースを 9 件行った。新聞掲載は

9件、他170件の撮影・取材や画像提供等に対応した。

センターの広報の一環として、県からの依頼によるつくばエクスプレス沿線定住促進のためのYouTuber撮影や日本テレビ番組制作のための撮影に協力した。

ホームページのほか、SNS(Instagram、Facebook)への広告掲載を行い、センター活動の広報対象を拡大した。また、屋外デジタルサイネージを追加し、来館者の増加に向けたセンター催事、プラネタリウム上映番組等のPR強化を図った。

(3) 情報セキュリティの強化

サイバー攻撃に対する財団ホームページ及びセンターホームページのウェブサーバー、メールサーバーのセキュリティサービスを引き続き導入し安全な運用を行っている。

5. その他

地域における役割の認識や期待に応えるため、つくば市などとの定例的な意見交換を継続した。

II.財団運営に関する総合的な活動に関すること

1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い、業務を適切に執行した。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り運営した。
(理事会3回、評議員会2回)

2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行った。

また、これに先立ち、外部監査として公認会計士による監査を実施した。

① 5月18日～20日 公認会計士による監査

② 5月31日 監事監査

3. 基金の運用

予算を上回る運用収益を計上した。また、満期償還(額面2億円)と期限前償還(額面6億円)について再投資を実施した。

4. 外部資金

外部機関助成金を獲得し、アウトリーチ活動を強化した。

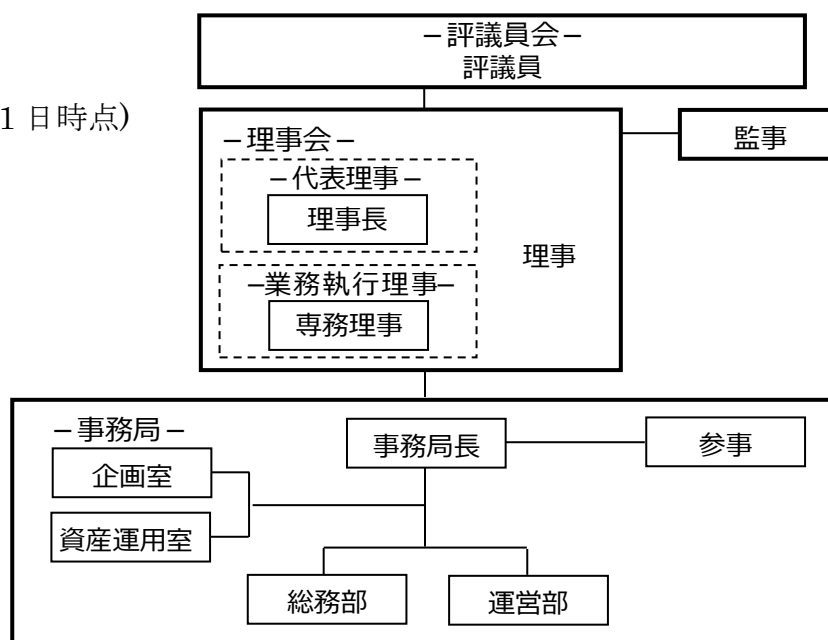
5. 施設・設備【公益1】

計画的な施設・設備等の整備に加え、1階第2休憩室の補修、屋上給水管更新工事、スプリンクラーヘッド更新工事、チケット売場前通路上の太陽光パネル設置工事、館内カメラシステム更新工事、駐車場目隠しフェンス設置工事、外構フェンス追加・正門扉改修工事、老朽化対応等を行った。

6. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を、事務局に総務部、運営部、企画室、資産運用室を置き、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

組織図
(2024年3月31日時点)



7. その他

法定点検が義務付けられている消防用設備等点検及び防火対象物点検（9月、3月）を実施し、適切に届出を行った。加えて、消防計画に基づき、消防訓練（7月、3月）を2回行った。

他に、建築基準法に基づく防火設備定期点検（5月）、特定建築物定期調査(10月)を行った。

事業報告書の附属明細書について

2023年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。